

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成22年 1月 4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070600539
法人名	社会医療法人 輝城会
事業所名	グループホーム沼田公園前
所在地	沼田市西倉内町658 (電話) 0278-30-2201

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年12月15日

## 【情報提供票より】(平成21年11月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12	常勤 9人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 400円/日 寝具のリース料 67円/日
敷金	有(100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 食事代に含む 円
	1日	円	

### (4) 利用者の概要(11月26日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	0名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.1歳	最低	78歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	沼田脳神経外科循環器科病院、沼田クリニック
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、沼田城址公園の正面入り口の近くにあり、公園の桜祭りなど四季折々の散歩にでかけている。事業所の行事などを掲載した「公園前だより」に「入居者様の様子」欄を設け入居者の暮らし振り等を家族に知らせると共に、毎月の利用料請求書に「お手紙」を同封し入居者の健康状態などを伝えるなど家族との絆を大切にしたい支援に取り組んでいる。また、自己評価の振り返りとして、日勤簿と夜勤簿に分かれていた2枚の用紙を1枚にまとめ見易く・活用しやすい様式に変え、フローシートに排泄チェック欄を設けるなど評価を活かしたサービスの質の向上に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題である「外部評価を職員に供覧したが、改善についての話し合いは行っていない」ことについては、外部評価のコピーを職員に配り全体ミーティングで話し合うと共に、運営推進会議で配布し意見交換を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、報告書コピーを全職員に配布・記入の後管理者がまとめた原案を基に職員と話し合い作成した。自己評価の振り返りとして、業務日誌の様式変更や申し送りの仕方を変え・フローシートに排泄チェック欄を設け、職員の処遇向上や入居者の買い物支援について話し合い実現に向け努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>時には納涼祭や避難訓練等事業所の行事に合わせ会議を開催している。会議では入居者の現況や事業所の運営状況・前橋のバラ園見物等の行事報告を行っている。また、外部評価や自己評価のコピーを配布し意見交換を行い、会議員から「避難・消火訓練にもっと多く近くの人達の協力をお願いしたほうがよい」との意見があり、今後は書面をもって近隣の方の協力依頼をすることとしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>外出行事や職員紹介等が記載された「公園前だより」に「入居者様の様子」欄を設け入居者毎の生活状況や薬の処方変更等を報告している。また、毎月の利用料請求書に「お手紙」を同封し病状や検査数値の変動等を家族に知らせると共に、面会時に相談・苦情等を聞き「相談・苦情処理簿」に相談等の概要、処理の経過、対応等が記載されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>沼田祭りや近くにある沼田城址公園の桜祭りを散歩がてら見物している。事業所の納涼祭に近隣の方達が参加し、地域の太鼓同好会の演奏が行われている。また、中学校の体験学習を受け入れ、幼稚園児の慰問や運動会に招待されるなど地域との交流促進に努めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気を大切にし常楽しく生活できる環境作り、地域の中で生活し地域との積極的な交流、医療機関との連携を密にし健康で豊かな日常生活を送ることを理念に掲げ支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の支援のあり方については管理者を含め話し合いを行っているが、理念に沿った振り返りはしていない。今後は、理念の実践に向けて具体的な目標を掲げ、全職員が参加する全体ミーティングにおいて理念を共有し、理念に沿った支援のあり方を話し合っていく予定である。	○	理念について職員間で話し合いの機会を持ち、理念を日々の実践の中で活かすよう期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	沼田祭りや近くにある沼田城址公園の桜祭りを散歩がてら見物している。事業所の納涼祭に近隣の方達が参加し、地域の太鼓同好会の演奏が行われている。また、中学校の体験学習を受け入れ、幼稚園児の慰問や運動会に招待されるなど地域との交流促進に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、報告書コピーを全職員に配布・記入の後管理者がまとめた原案を基に職員と話し合い作成している。自己評価の振り返りとして、業務日誌の様式変更、申し送りの仕方を改正、フローシートに排泄チェック欄の新設、職員の処遇向上、入居者の買い物支援について話し合い実現に向け努めている。外部評価のコピーを職員に配り全体ミーティングで話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催は、時には納涼祭や避難訓練等事業所の行事に合わせ開催している。入居者の現況や事業所の運営状況・前橋のバラ園見物等の行事報告を行っている。また、外部評価と自己評価のコピーを配布し意見交換を行い、会議員から「避難・消火訓練にもっと多く近くの人達の協力をお願いしたほうが良い」との意見があり、今後は書面をもって近隣の方の協力依頼をすることとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所が主催する医療連携体制加算等の説明会や法人名の変更届や入退去届・事故報告書等を持参した際に情報収集に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	外出行事や職員紹介等が記載された「公園前だより」に「入居者様の様子」欄を設け入居者毎の生活状況や薬の処方変更等を報告している。また、毎月の利用料請求書に「お手紙」を同封し病状や検査数値の変動等を家族に知らせている。金銭管理は、立替金と預り金処理を行い出納帳の写しに領収書を添え利用料請求時に精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に重要事項説明書で、ホーム内及び外部苦情申し立て機関を説明している。また、面会時に相談・苦情等を聞き「相談・苦情処理簿」に相談等の概要、処理の経過、対応等が記載されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホーム等の事業所新設に伴う異動以外は必要最小限に抑えるよう努めている。異動があった場合は、新規採用者はもとより他事業所において経験豊富な人にもベテラン職員との2人体制をとり、早・遅番業務内容や注意点等を指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示するとともに、県主催の基礎研修等を受講した者は報告書を作成し発表している。また、全職員が出席する全体ミーティングで移乗や排泄介助等の勉強会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県地域密着型サービス連絡協議会に加入し、レベルアップ研修会に参加している。協議会が主催する管理者集会で話し合い、今後は北毛地区管理者の意見交換会を開催し情報交換を行いサービスの質の向上に取り組むこととしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や本人に見学に来てもらったり、併設のデイサービス事業所とは日々交流を行っているので、入居希望者にはデイサービスを利用しつつグループホームの雰囲気馴染むよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭菜園の栽培管理や書を得意とする入居者に誕生会等の張り紙を書いてもらい、また冬至を過ぎたら米粒一つずつ日が短くなる等の諺やどんど焼きなど年中行事の食べ物や編物を教わっている。入居者がくるま椅子を押し・水をこぼした時他の入居者が拭き取るなど入居者同士共に支え合う関係も築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者同士や職員とのコミュニケーションで気づいた思いや意向の内容を月2回のケアカンファレンスで話し合っている。意思表示の困難な入居者には言葉掛けを行い表情から汲み取る他家族から聞き取りを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、月2回開催するケアカンファレンス(1回に入居者の半数を検討)で介護のあり方や職員の気づきを話し合いケアマネージャーが作成している。介護計画の署名欄に家族の署名がされてない。	○	介護計画の内容を職員も共有するとともに、家族の面会時等に職員が説明を行い同意を得た後署名を頂くよう期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングを基に、6ヶ月毎の定期見直しを行っている。月2回開催するケアカンファレンスで入居者毎の介護計画を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 <sup>7</sup> の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	専門医への受診・お盆や彼岸の墓参り・親戚の葬儀への送迎を職員が行っている。また、理容師の資格を所持する職員が入居者のカットを行い、入居前から利用している美容院への送迎も職員が行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が月2回往診している状況を入居時家族に説明し、全入居者が協力医をかかりつけ医として受診している。協力医や専門医の受診内容は、毎月の利用料請求書に同封する「お手紙」で知らせ、緊急の場合は電話で連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「グループホーム沼田公園前看取りに関する指針」に、看取り介護の考え方や視点、看取り介護の具体的支援内容や方法等が記載されている。グループホーム沼田公園前利用者の医療連携体制加算に関する説明書」に看取りに関する考え方が記載され、家族が署名し押印している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いや呼称、排泄介助や入室の際の声掛け等については全体ミーティングで指導し、実行できない職員は個別指導を行っている。記録は見守りを兼ねて食堂で行い、書類は事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事はその人のペースに合わせ、散歩や入浴・体操やレクリエーションは体調や希望を考慮して無理強いせずに行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる人には下膳をしていただき、入居者の希望を取り入れた献立表を作成し、家庭菜園で収穫した新鮮野菜を食卓に添えている。誕生会では該当する人の好きなものを提供し・酒を希望する人には提供するなど食事が楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日置きの入浴であるが、拒否する人は無理強いすることなく人を変え声掛けを行い、あるいは翌日に勧誘している。入浴中は入居者と職員との貴重な対話の時間として活用し、昔の食べ物等を聞き献立に取り入れている。また、干したミカンの皮を入れたミカン湯や冬至のユズ湯あるいはリンゴ湯を楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園で野菜を収穫し・書の得意な人には誕生会等の垂れ幕を書いてもらうなどの役割をお願いし、貼り絵や各種ゲーム・行事食の時に酒を飲む人・南面の芝生のベンチで日光浴を兼ねお茶を飲むなどの楽しみ事を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所は沼田城址公園の正面入り口の近くにあり四季折々の散歩に出かけている。また、駐車場でボールゲームや屋外での体操を行うと共に、入居者と事業所用の買い物や弁当を持参し前橋敷島バラ園・水上町へ紅葉見物に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居したばかりで不穩になる人が居るので日中鍵を掛けている。落ち着いた時間帯は見守りを徹底し鍵を掛けない支援に取り組んでいく予定である。	○	入居者の言動パターン等を把握・検討され、鍵を掛けないケアの早期実現を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に避難経路や避難場所が指定され、年2回のうち1回は消防署の指導を受け夜間を想定した避難訓練が行われている。夜勤時の「火災等非常災害時の対応について」が定められ、夜間の対応方法や避難経路等が記載されている。また、運営推進会議員に避難訓練を見学して頂いているが、今後は書面で近隣の人たちに協力依頼を行う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	過去の献立表を参考に栄養バランスを考慮した献立表を職員が作成し管理栄養士に点検してもらっている。食事摂取割合が主食・副食毎にバイタルチェック表に記載されている。水分摂取は食事時やお茶の時間に補給し、何時でも好きな時飲めるよう食堂にポットが置かれているが、記録されていない。	○	水分摂取量を記録し、職員が把握・共有できる取り組みを期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関正面の壁に入居者と職員が制作した色彩豊かな貼り絵が飾られ、観葉植物が置かれている。食堂には貼り絵が掛けられ・クリスマスツリーが置かれ、加湿器が稼動し10時と15時の温・湿度が記録された表が温・湿度計の脇に張られている。食堂に隣接した和室には炬燵があり、壁には実物大のサンタクロースの着物が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビやタンスが持ち込まれ、家族の写真や習字が飾られている。室内の机や炬燵の配置・写真の飾りつけなどは家族と相談し、入居前の同じ模様とするなど居心地良く過ごせるよう配慮している。		